

## 南区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体				
みなみかぜ交流広場事業						
事業目的	事業内容	活動指標	H30	R1	R2	
<p>障がい者と交流の場を設けることで、区民の障がい者に対する理解を深め、区民がともに支えあう地域福祉の充実をめざす。</p>	<p>・南区役所1階みなみかぜ交流ひろばにて、障害者支援施設における活動のパネル展示や喫茶の運営、お菓子や小物等の授産製品の販売を行う。 ・啓発の一環としてみなみかぜ交流ひろばのパンフレットを作成し、配布する。</p>	<p>「ギャラリーみなみかぜ」実施事業内容</p>	<p>平日に製品販売・喫茶コーナー、啓発のための展示、もちつき大会や記念イベントの実施</p>	<p>平日に製品販売・喫茶コーナー、啓発のための展示、もちつき大会や記念イベントの実施</p>	<p>平日に製品販売・喫茶コーナー、啓発のための展示及びパンフレットの作成</p>	
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性			
<p>◎ 障がい者の理解を深めるための事業として、行政と障がい者支援施設が連携を図る必要がある。</p>	<p>○ ひろばを運営している「ギャラリーみなみかぜ」は南区内の障がい者支援施設がメンバーとなっている。障がい者支援施設と行政が、事業の企画・実施・運営に関し、意見を交えながら実施している。</p>	<p>○ 区役所1階の交流ひろばで事業を実施することで、区民にとって開かれた場になっている。喫茶コーナーは区民の憩いの場となり、ひろばにキッズスペースを設け、子どもやその保護者が過ごせる場になっている。</p>	<p>○ 製品の販売や喫茶の運営により、自主製品の売り上げは障がい者支援施設で働く障がい者の工賃となり、就労機会や社会参加の場となっている。 交流ひろばでの啓発パネル等の展示や、実際に働く人と接することにより、障がい者の生活や活動を知ってもらう機会となっている。</p>			
⑤自立発展性	総合評価					
<p>○ 運営に関して月1回障がい者支援施設が集まり、企画等の会議を行っている。この会議の結果を踏まえ、月1回行政職員と代表者が会議を行い、運営内容を決定している。</p>	<p>○ 行政と障がい者支援施設が連携し、区役所1階の交流ひろばで製品販売や喫茶、パネル展示を行うことにより、障がい者の活動が区民にとって身近な存在となっている。もちつき大会や記念コンサートなどを継続して行ってきたことにより、区民の認知度が向上し、障がい者や子ども、区民が活動をともにする場として定着してきた。</p>					
今後の方向性(課題、改善提案等)						
<p>拡充 継続 見直し 廃止</p>	<p>今後もみなみかぜ交流ひろば事業を通して、障がい者と区民が交流する機会を提供し、障害者理解を促進し啓発活動を行っていく。</p>					